

取組の背景・目的

■ 市中心市街地では、新施設「おにクル」やJR・阪急両駅前エリアなどで新たな拠点形成に向けた事業が進行している。これら各事業の効果を波及させていくことが必要

[課題]

- ・歩道が狭く、自動車中心の道路で、自転車利用も多く、歩道上で歩行者・自転車の錯綜が見られ危険である。
- ・座る場所が少なく、滞在しにくく、通りすぎる歩行者が多いため、賑わいに欠けている。
- ・通り全体のイメージの共有や空間活用の視点が不足している。
- ・将来、一方通行化の構想がある。



- 歩道幅員だけでなく、道路空間としてゆとりがない。
- 交通量は減少傾向にあるものの大型車両も含めて、**交通量が多い**。
- 建物前のオープンスペースが少なく、休憩・滞留空間に乏しい。
- 商店街など店舗が連続する部分が限られ、**通り全体の賑わいにつながっていない**。
- 沿道の土地利用などが通りごと、エリア(JR側、阪急側)ごとで異なり、**通りの雰囲気等が異なる**。
- 街路灯や安全柵などのデザイン、街路樹の樹種や設置位置などに**統一感がない**。

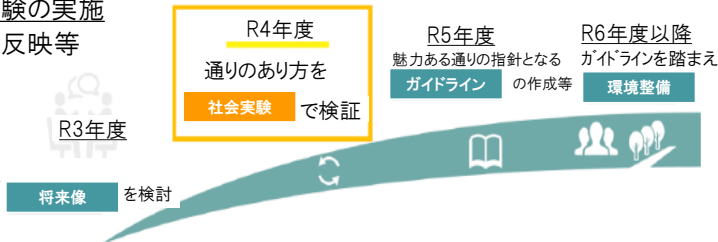


[目的]

道路空間と沿道建築物等が一体となった、歩きやすく歩いて楽しく滞在や活動したくなるような魅力ある景観形成を図り、各拠点の賑わいを面的に広げ、市中心市街地の活性化に寄与する。

■ スケジュール

- 令和2年度 現況調査
- 令和3年度 ①ワークショップ、勉強会による将来像の検討
- 令和4年度 ②空間のあり方の検討、③社会実験の実施
- 令和5年度 ④ガイドライン策定・景観計画への反映等
- 令和6年度以降 ガイドラインに沿った環境整備



① 将来像の検討

■ 3回のワークショップ、2回の勉強会等を実施し、通りの将来像について沿道事業者等と検討

[通りの将来像(案)] ⇨ 多くの意見を聴き、磨きあげていく予定

めざすべき将来コンセプト

人が主役になり、まちの魅力をつなぐ“次ぐ”2つのメインストリート

市役所、新施設・広場などがある中心部と両駅をつなぐメインストリートとして、目的地へ向かう期待感や魅力的な雰囲気を演出する空間をデザインし、ストリートの魅力をまち全体に広げていく。

めざすべき将来像に基づくストリートイメージ

- ① 人と人との“ワン・コミュニケーション”を楽しめるストリート **点** スポットづくり 滞在空間
気軽に立ち寄れるオープンなお店の店先やゆつくり滞在できる空間で、ささやかなコミュニケーションが自然と生まれ、通りを行き来する人のゆとりや豊かさを感じることのできるストリート
- ② 沿道の賑わいや季節を感じ、“ワクワク”が高まる歩きたくなるストリート **線** 通り全体での魅力的な雰囲気づくり
自然や季節、お店の賑わいなどを感じながら、新施設などの目的地に向けて気分が高まるストリート
- ③ まちなかの個性がつながり、“ふらっと”歩き回りたくなるストリート **面** 通りからまち全体へ
周辺の商店街や施設、東西軸と交差する路地など、まちなかの多様な個性がつながり、歩き回りたくなる起点となるストリート
- ④ ゆったり並んで、安心・安全に歩きやすいストリート **安心** 安心・安全
2人並んで歩いたり、子どもからお年寄りまで車や自転車を気にせず、安心して歩ける安全なストリート



② 空間のあり方の検討(将来像の可視化)

■ これまで実施した市民ワークショップの結果等を基に、各通りの空間のあり方を検討

North

中央通り

[デザインコンセプト]

賑わいと交流を育む親しみやすいみちへ

気軽に立ち寄れるオープンなお店の店先で交流が生まれ、人の賑わいや活動が感じられる通り

[中央通り 将来のイメージ図(素案) & 各要素のデザインの方向性(素案)]



- ＜歩道空間＞
民有地の賑わい・交流が際立つ、楽しく歩けるデザイン
- ＜車道空間＞
自動車と自転車が共存した、安全な通行を担保するデザイン
- ＜民有地＞
賑わい・交流や人の動きが染み出すデザイン

South

東西通り

[デザインコンセプト]

身近に潤いを感じる良質で落ち着いたあるみちへ

自然による癒しを感じたり、おしゃれなお店でささやかな交流を楽しむなど、自由に過ごせる落ち着いた通り

[東西通り 将来のイメージ図(素案) & 各要素のデザインの方向性(素案)]



- ＜歩道空間＞
通り全体で潤いや落ち着きが感じられ、ゆったりと歩けるデザイン
- ＜車道空間＞
自動車と自転車が共存した、安全な通行を担保するデザイン
- ＜民有地＞
軒先にも潤いが見える、歩道と協調したデザイン

■ プロジェクト名の検討、ロゴの作成

① 将来像の検討や、②空間のあり方の検討などを基に作成。メインストリートの取組に幅広く活用



■ プロジェクト名 「茨木みちクルプロジェクト」の意図

市中心市街地の各拠点をつなぐメインストリートとしての「みち」に、人がたくさん「クル」ことをイメージし、笑顔に満ちた人たちがクルクルと回遊して、市中心市街地の活性化につなげていくことを意図

■ ロゴの意図

市中心部の新施設『おにクル』や、元茨木川緑地(1パーク)と両駅(2コア)とを2つの通りがつなぐ、織り込むというイメージで体現したもの(赤は「賑わい・交流」の中央通り、緑は「潤い・落ち着き」の東西通りをイメージ)